



# GENKYO YOKOO TADANORI GENKYO 横尾忠則 [原郷から幻境へ、そして現況は?]

愛知芸術文化センター 10階  
2021.1.15[金] - 4.11[日] 愛知県美術館

横尾忠則（1936 年生まれ）は、1960 年代初頭よりグラフィック・デザイナー、およびイラストレーターとして活動を開始し、日本の土俗的なモチーフとポップ・アートの感覚を融合させた独自の表現により、世界的に高い評価を得ました。その後、1980 年代に、いわゆる「画家宣言」によって、「デザイナー」から「画家・芸術家」へと活動領域を移し、斬新なテーマと表現による作品を次々と発表して、国内外で現代美術家としても高い評価を得るに至ります。2000 年代以降、国公立美術館での個展が相次いでおり、パリのカルティエ現代美術財団（2006 年）をはじめ、近年では海外での発表も数多く行われています。

横尾忠則の個展は、特に 2012 年の横尾忠則現代美術館（神戸）の開館以降は、さまざまなテーマのものが数多く開催されており、現在もっとも著名で活動的な現代美術作家の一人と言ってもいいかもしれません。東海地方の美術館では初めての横尾展となる今回の展覧会は、作家の全面的な協力のもと、「作品による自伝」をテーマに、横尾忠則の芸術の全貌を、グラフィック作品を含めて多角的に、また歴史的に紹介することを試みます。

横尾忠則の作品には自伝的なエピソードや記憶を主題としたものが少なくありません。また、特に近年の作品においては、自己反復や自作のパロディ、パステーションを扱った、自己言及的なものが、かなりの頻度で見受けられます。反復される自己についての、自己の芸術についての「語り」は、横尾の芸術の重要な要素です。

この意味において、横尾の最近の絵画作品、および文学作品に現れる「原郷」という概念は、とくに注目に値するように思われます。それは、すべての人間の魂のふるさとであり、横尾の芸術の背後に存在する広大なイメージのリソースでもあります。画家が繰り返し立ち戻り、様々なイメージや記憶の連関を見出している、鬱蒼とした森のような領域。この「原郷」こそが、変幻自在でいつも新鮮な驚きをもたらしてくれる、その独特なイメージ世界が生み出される源泉なのです。本展は、絵画を中心にグラフィック作品を加えた豊富な出品作品によって、横尾の生涯の展開をたどりながら、その芸術の全貌を明らかにしようとするものです。

## 本展へのメッセージ

私は絵画から目を外して来ませんでした。

未だに絵画は私にとって未知の領域です。

横尾忠則



1 撮影：三部正博

## 作家プロフィール

横尾忠則 よこお・ただのり

1936年、兵庫県西脇市生まれ。高校卒業後、神戸でデザイナーとしての活動を始め、1960年に東京に進出、グラフィック・デザイナー、イラストレーターとして脚光を浴びる。その後、1980年にニューヨーク近代美術館で大規模なピカソ展を見たことを契機に、画家としての本格的な活動を開始。様々な手法と様式を駆使して森羅万象に及ぶ多様なテーマを描いた絵画作品を生み出し、国際的にも高く評価されている。2012年に横尾忠則現代美術館(兵庫県神戸市)、2013年に豊島横尾館(香川県豊島)開館。主な個展に「横尾忠則 私への帰還」(兵庫県立近代美術館、神奈川県立近代美術館、1997)、「横尾忠則 森羅万象」(東京都現代美術館、広島市現代美術館、2002-2003)、「TADANORI YOKOO」(カルティエ現代美術財団、2006)、「冒険王・横尾忠則」(世田谷美術館、兵庫県立美術館、2008)、「横尾忠則 全ポスター」(国立国際美術館、2010)、「横尾忠則展 反反復反復」(横尾忠則現代美術館、2012)、「横尾忠則 HANGA JUNGLE」(町田市立国際版画美術館、横尾忠則現代美術館、2017)など。

## 展覧会のみどころ

### 1. 作家の全貌に迫る

兵庫県西脇市で過ごした高校時代の作品、グラフィック・デザイナー、イラストレーターとして一躍脚光を浴びた1960年代のグラフィック作品、いわゆる「画家宣言」後、活動領域を絵画に広げた1980年代以降の多様なスタイル・技法・テーマによる絵画作品、さらには2000年代の代表作「Y字路」シリーズから最新作「原郷」と、豊富な出品作品によって60年以上に及ぶ作家の活動の全貌に迫ります。

### 2. 作品による自伝

横尾忠則は、自らの幼少時の記憶やエピソードをモチーフとした作品を数多く手がけてきました。また、自身の体験や、夢の中で見た情景も、しばしば作品の中に登場します。横尾にとって、自己とは、汲めども尽きぬインスピレーションの源なのです。展覧会では、代表的な作品の数々によって、横尾の芸術の展開と生涯のエピソードとを、重ね合わせながら描き出していきます。

### 3. 東海地方で初の個展

横尾忠則の個展は、とくに2000年代以降、毎年のように全国各地の美術館で、多様なテーマのもとで開催され、好評を博してきました。今回の展覧会は、東海地方の美術館では初めて開催される横尾忠則の個展であり、またその規模は、過去の個展と比較しても最大級のものとなります。

## 展覧会カタログ

2021年1月中旬に刊行予定 刊行：国書刊行会 価格未定

## 関連イベント

スライドトーク（企画・監修者による展示解説会）

日時は決定次第、美術館ウェブサイトでお知らせします。

※都合により変更になる場合があります。

## 展覧会概要

名 称 GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は？  
会 場 愛知県美術館 [愛知芸術文化センター10階]  
会 期 2021年1月15日（金）～4月11日（日）[75日間]  
開館時間 10:00～18:00 金曜日は20:00まで（入館は閉館30分前まで）  
休 館 日 月曜日  
観 覧 料 一般 1,500（1,300）円 / 高校・大学生 1,200（1,000）円 / 中学生以下無料

※（ ）内は前売料金。

※上記料金で同時開催のコレクション展もご覧いただけます。

※「身体障害者手帳」「精神障害者保健福祉手帳」「療育手帳」のいずれかをお持ちの方、また、その手帳に「第1種」または「1級」と記載のある方に付き添われる方は1名まで当日料金が半額になります。美術館チケット売場にて手帳をお示しになり、お買い求めください（付き添いの方はお申し出ください）。

※前売券は、愛知県美術館10階チケット売り場では販売いたしません。前売券、当日券についての詳細は美術館ウェブサイトをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、同時に多くの方が入館することを避けるため、本展では団体割引は行いません。

ア ク セ ス 地下鉄東山線・名城線「栄」駅／名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、オアシス21連絡通路利用徒歩3分  
ウェブサイト <https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

主 催 愛知県美術館、メ〜テレ、朝日新聞社  
特 別 協 力 横尾忠則現代美術館  
特 別 協 力 国立国際美術館  
企 画 監 修 愛知県美術館 館長 南 雄介

## 同時開催

愛知県美術館2020年度第4期コレクション展

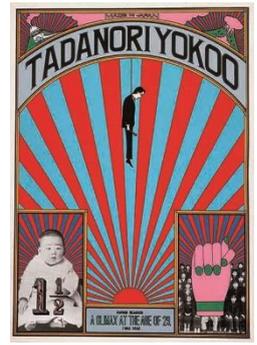
広報用画像



2



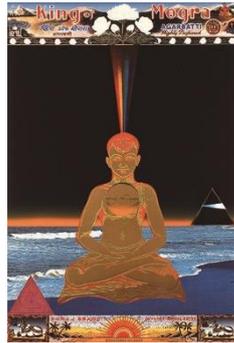
3



4



5



6



7



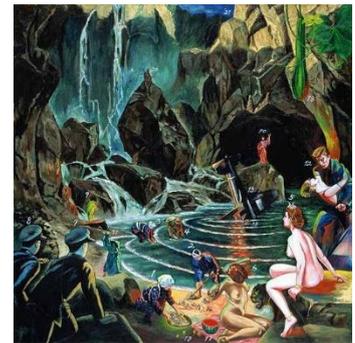
8



9



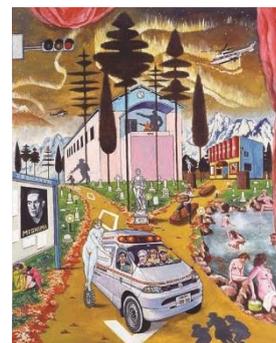
10



11



12



13



14



15



16



17

広報用画像として17点をご用意しております。

掲載ご希望の方は、お手数ですが本申込書に必要事項をご記入の上 FAX またはメールにてご連絡ください。なお画像使用に際し、キャプションには作品名、制作年、所蔵先、コピーライト等を必ずご表記ください。作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。本展をご紹介いただく場合には、恐縮ですが基本情報確認のため、校正原稿を事務局宛に FAX またはメールでお送りください。また掲載後には、掲載誌(紙)、HP リンク、DVD、CD-ROM 等を下記事務局宛てにお送りくださいますようお願いいたします。

媒体名：	発売・放送予定日：
種別： テレビ ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ウェブ媒体 その他( )	
貴社名：	ご担当者名：
E-MAIL：	
ご住所：	
TEL：	FAX：

ご希望の図版番号に印をお付けください。

- 1 横尾忠則 撮影：三部正博
- 2 《戦後》1985年(2017年ハラミュージアムアークでの展示風景) Photo by Shinya Kigure  
作品所蔵および写真提供 原美術館コレクションー公益財団法人アルカンシエール美術財団
- 3 《想い出と現実の一致》1998年 富山県美術館
- 4 《TADANORI YOKOO》1965年 京都国立近代美術館
- 5 《花嫁》1966年 東京都現代美術館
- 6 《聖シャンバラ 火其地》1974年 東京都現代美術館
- 7 《解かれた第七の封印——画家の誕生》1991年 セゾン現代美術館
- 8 《浪漫主義者の接吻》1986年 愛知県美術館
- 9 《安らかに眠れ》1987年 作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)
- 10 《ミケランジェロと北斎の因果関係》1990年 横尾忠則現代美術館
- 11 《実験報告》1996年 東京都現代美術館
- 12 《暗夜光路 赤い闇から》2001年 東京都現代美術館
- 13 《想い出劇場》2007年 個人蔵(横尾忠則現代美術館寄託)
- 14 《愛のアラベスク》2012年 作家蔵
- 15 《ジュール・ヴェルヌの海》2006年 世田谷美術館
- 16 《トイレットペーパーと女》2017年 作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)
- 17 《追憶あれこれ》2019年 作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

会場撮影に関するお願い

三脚等を使用する撮影をご希望の方は、事前に広報担当までご相談ください。休館日、または閉館時間内で日程を調整させていただきます。

問い合わせ先 / 校正原稿等の送付先

愛知県美術館「GENKYO 横尾忠則」事務局

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

広報掲載に関すること : 広報担当 田村

TEL: 052-971-5511 (代) FAX: 052-971-5604

展覧会内容に関すること: 展覧会担当 平瀬、中野

E-MAIL: art11@aac.pref.aichi.jp